

令和2年度 和歌山大学教育懇談会

和歌山大学では、学部在学生の保護者(保証人)の皆様を対象に、11月7日(土)に教育懇談会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況等を鑑み、栄谷キャンパスに来学いただいての開催を断念いたしました。大変残念ではございますが、何卒ご理解、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。


対面実施に替えて、本学の教育・運営への取り組み、各学部で実施いたします個別相談のご案内等を送付させていただきますので、本学の教育・運営へのご理解とご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、学部の最新状況、就職状況等については、学部の説明資料を同封させていただきますので、ご確認くださるようお願いいたします。

おって、本学では年1回教育懇談会のご案内にあわせて前期末成績通知書を送付させていただきます。

卒業要件等の説明資料を同封しておりますので、学生ご本人と成績(単位取得)や修学状況をご相談いただき、修学上の相談が必要な場合は、個別相談にお申し込みくださるようお願いいたします。

個別相談の日程・実施方法・申込方法

	日程・実施方法	申込方法
教育学部	平素より保護者(保証人)からの修学上の相談を承っておりますので、随時電話でお問い合わせください。	073-457-7219 学務課教育学部係 ※月～金/9:00-17:00
経済学部	■実施日程: 11月7日(土) ■実施方法: 遠隔(Zoom) 詳細は別紙学部案内をご参照願います。	【事前申込制】 経済学部ホームページ専用フォームからお申し込みください。
システム工学部	■実施日程: 10月19日(月)～11月6日(金) 【土・日・祝日除く】 ■実施方法: 同封の申込用紙による事前申込制 本学に来学して対面のほか、メール、電話なども可能です(詳細は、お申込みの後に日程調整の際にご相談いたします。) ■申込期限: 10月13日(火)【必着】	同封の申込用紙に、必要事項と相談内容を記入し、郵送またはFAXでお申し込みください。 〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学 システム工学部係 FAX:073-457-8043
観光学部	相談内容を専用ホームページで受け付け、メール等にて回答させていただきます。 10月12日(月)～30日(金)に実施する後期の学生対象修学履修相談(オンライン)の際に3者面談を実施することも可能です。(修学履修相談の対象学生には後日観光学部係から連絡します。)	 左のQRコードから相談内容を登録してください。観光学部係よりご連絡させていただきます。受付期間【10/1～10/16】

学 長 挨拶

学 長 伊 東 千 尋



日頃より、本学の教育・研究に対して、ご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。この教育懇談会は、本学の人材育成の取り組みと学修環境を観ていただく機会として2006年から開始されました。本来の目的に照らせば、本年も皆様を栄谷キャンパスにお迎えし、本学の進める人材育成へのご理解を深めていただくべきところではございますが、新型コロナウイルス感染症の新たな感染拡大を防止する観点から、教育懇談会の開催方法を変更させていただきました。ご理解をいただきたく、お願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、学生の学修そして生活環境に大きく影響を与えています。この事態の下での本学の教育についての対応につきましては、この後、担当理事よりご説明させていただくことといたしまして、ここでは、学生の生活の支援について、述べさせていただきます。本学では、アルバイトが無くなるなどによって経済的に著しく困窮した200名強の学生に対して一人5万円を給付する独自の支援を実施いたしました。さらに、このような状況を観た地域から、厚い支援を受けることができました。株式会社賃貸住宅センター様からは、困窮する学生への支援として高額のご寄附を賜りました。いただきましたご寄附は、予想される今後の感染増により発生する経済的困窮の支援に活用させていただく予定です。また、JAわかやま様からは、農薬や化学肥料の使用を大きく減らし、安心して食べることができるこだわり米約1.6トンをご寄贈賜り、希望学生300名余りに配付いたしました。これらの学生に対する支援は、本学で学ぶ学生が地域から如何に期待され、支援されているかを表わす事例として、皆様にもご紹介申し上げる次第です。

現在、国立大学改革が進められており、特に、産業界を含む社会との連携が強く求められています。本学を構成する教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部はいずれも、社会そして産業との関連が強い学部であり、社会との連携を強め、教育に活かしていきたいと考えております。特に、地域との連携については、地域貢献型大学として非常に重要であると考えております。本学の教育研究のフィールドである和歌山県、泉州南部とその周辺地域との連携を深め、紀伊半島の持つ価値を進化させていくことが、本学の基幹的ミッションであるとの考えの下、学長を基幹長とする紀伊半島価値共創基幹を設置しました。紀伊半島価値共創基幹は、「共創」という言葉が表す様に、地域と大学が共に価値を作り上げる活動に力点を置いています。大学で実施される地域貢献の多くは、大学の研究シーズ展開に重点が置かれていましたが、紀伊半島価値共創基幹では、地域ニーズを大学における研究テーマとして取り込み、大学に蓄積された知的資源を活用して地域課題を解決する取り組みを進めていきます。この取り組みは、地域の価値創造と共に教育のフィールドを広げることに繋がります。(本冊子5ページの紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus(キープラス)をご覧ください。)

時代が大きく変化する現在にあって、社会が求める人材も大きく変化しています。和歌山大学は、この社会変化に対応し、皆様のご子息・ご令嬢の母校として価値のある大学となるべく、本学の特徴を生かした教育研究を展開して参ります。和歌山大学に引き続きご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

コロナ禍における本学の教育状況について

理事(教学・入試) 永井 邦彦



教育懇談会は、保護者(保証人)の皆様にご来学いただき、本学における学生教育の現状についてご説明し、皆様と懇談を行うことで相互の理解を深めることが大きな目的であります。したがって、コロナ禍の渦中にある今年度につきましては、大学においてどのような教育が可能であるのか、皆様のご関心がことのほか高いものと拝察いたします。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の状況から、今年度の対面実施を見送ることになりましたので、紙上をもちまして、ご説明させていただきます。

大学の授業関係について時系列を追って説明します。4月5日の入学式の中止に続き、3月末に授業開始を4月8日から4月22日に延期し、授業は原則として遠隔授業で実施することを決定しました。ただし、22日以降の授業等の見通しについて説明するために、新型コロナウイルス感染症対策からガイダンスを実施しない大学が多数ありましたが、本学は4月5～7日に学生へのガイダンスを開催しました。今後の大学生活がどのようなものになるのか、説明し理解してもらう必要があり、対面で実施しました。しかし、緊急事態宣言の発出を受けて、登学は禁止、授業開始は5月7日に再延期、授業は原則ではなく、すべて遠隔授業で実施することを決定しましたので、新入生にとってはガイダンスが登学する貴重な機会になりました。

オンラインによる遠隔授業には同時双方向型とオンデマンド型の2種類があります。同時双方向型は映像と音声を伴った授業が同時進行で進み、授業中に教員と学生の応答ができます。ただし、これは一回限りの授業であり、また、受講する学生の通信環境が整っていないと受信できない心配があります。これに対して、オンデマンド型は学生の「要求(Demand)に応じて」、教員が説明する音声が付いた文字表現による映像を、繰り返して視聴することができ、また、配信するサーバの負荷も少なく、学生の受信環境についても高度のものを要求しません。したがって、本学でも動作環境が安定しているオンデマンド型を推奨しつつ、必要な科目については同時双方向型の使用も認めました。

遠隔授業の方式は決まりましたが、最大の課題は、どのようにして遠隔授業を実施するかです。そのために、「遠隔授業実施WG(ワーキンググループ)」が、初めて遠隔授業に取り組む教員に教材作成の方法を説明し、作成に伴って生じる様々な疑問や問題に対応することにしました。(本冊子5ページの和歌山大学における遠隔授業実施体制をご覧ください。)

授業開始は5月7日に延期されましたので、教員は1ヶ月の準備期間を経て、遠隔授業に臨むことになりましたが、遠隔授業は学生と教員が対面して行われる従来の授業と同等の教育の質を保証できるのか、という難しい課題が残っていました。これについては、教員の大変な苦勞がありましたが、「遠隔授業は教材を保存し配信するという形態ゆえに、授業を何度も聞き見直して考察を行うことで、授業の構成や展開の工夫や充実が可能になり、授業改善につながった」という教員の声が多方面から聞こえてきました。遠隔授業が教員のFD(ファカルティ・ディベロップメント:教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組)になっています。学生も、「よくまとめられていて、止めて聞き見直する(止まって考える)ことができ、理解が進む」と評価しています。

当初は心配されていた遠隔授業が授業改善につながったことを書きましたが、遠隔授業はまだ発展途上

であると言えます。また、すべての遠隔授業が評価されたわけではありませんし、すべての授業が遠隔授業で実施可能なわけでもありません。対面での授業を求める学生の声大きいことも事実です。したがって、実験や実習などの対面で行うことが必要なものについては、感染予防と3つの密(密閉・密集・密接)の回避を徹底することで、6月25日から対面授業を開始しました。また、卒業論文や修士論文の作成などは教員の指導のもとで行われるものですから、大学での研究指導を可能にしました。しかし、対面を開始すると、新型コロナウイルスに感染する危険が増大する、感染症が拡大するのではないかと、という懸念の声も寄せられています。

このような教育環境のもとで前期授業が終了しましたが、新型コロナウイルス感染症がいつ収束するのか、まだ予見できない状況です。ですから、前期の遠隔授業から得た成果や反省点を活かして、後期においても遠隔授業を中心として、対面授業を組み合わせ教育活動を行っていきます。そして、令和3年度には対面授業の比率を高めることができるように願っています。

また、大学の教育は授業を中心とする正課活動だけで成り立っているわけではなく、課外活動があります。遠隔授業を受けるだけで、大学へ来ることがない学生にはかなりのストレスが溜まっています。クラブやサークルについても6月25日から感染予防と3密回避を遵守することを条件に、ガイドラインを作成し、制限をつけて活動を認めました。学生に対しては、課外活動においては「3つの自」、つまり「自律・自制・自衛」をモットーにして、主体性をもって判断し、安全の確保を第一に行動すること、課外活動は自由意思に基づくものであり、決して強制されるものではないことを伝えました。そして、夏季休業に入った8月19日からは活動の制限を緩和し、学生の自主判断にゆだねています。

以上のように、和歌山大学では、なるべく多数の学生が大学へやって来て、正課活動と課外活動に参加できるように工夫し、腐心していますが、まだ従来のような大学生生活を送ることはできません。特に1年生のなかには、入学はしたけれど、家に閉じこもって授業を受けるだけで、大学生生活を実感することができず、大学で学ぶことの意味を見失い、苦しんでいる学生がいます。私たちは学部新入生を対象に「今、一番困っていること」を把握するためにアンケート調査を行いました。学生とコンタクトをとるために、「学生なんでも相談室」や「キャンパスライフサポートルーム」を設置し、学生からのメールによる投書箱も設けています。今年度は大学祭を中止にしましたので、その期間中に状況が許す範囲で、学生が交流できるイベントを実施できないか、企画も検討しています。コロナ禍にあっても、充実した学生生活を送れるように、態勢を整えていきます。

学生なんでも相談室 <https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/trouble/conference.html>
TEL:073-457-7121 E-mail:sodan@ml.wakayama-u.ac.jp

キャンパスライフサポートルーム <https://www.wakayama-u.ac.jp/cls/>
TEL:073-457-7155 E-mail:shien@ml.wakayama-u.ac.jp

新型コロナ対応(履修・学生生活)お問い合わせフォーム
..... <https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/inquiry/111/>

紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus(キープラス)

令和2年4月、従来の地域イノベーション機構、地域活性化総合センターの体制を一新し、紀伊半島価値共創基幹を設置いたしました。本基幹は、紀伊半島が抱える課題の解決と地域の事業発展について、研究成果の提供にとどまらず、自治体・企業・市民団体等との共創を通じた教育研究の展開により、地域社会の発展に寄与することを目的としています。

“共創”型で進める地域連携の3つのポイント

1. 社会実装教育研究プロジェクト発足

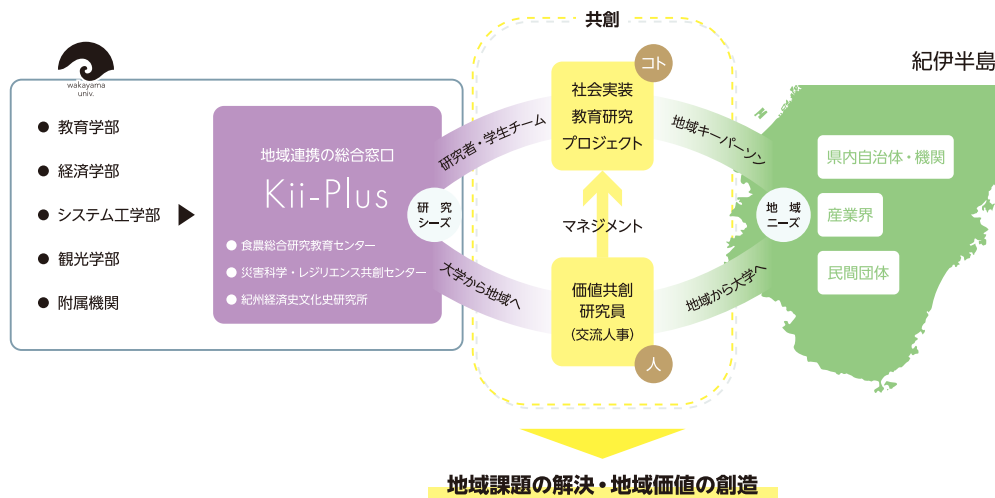
地域と大学の繋がりを強固にしているため「複数教員」と「地域のキーパーソン」によるチーム型プロジェクトを進めます。

2. 価値共創研究員による交流人事

地域ニーズを大学に持ち込んで共にプロジェクトを進める「価値共創研究員」を、自治体・企業・団体から受け入れ&派遣します。

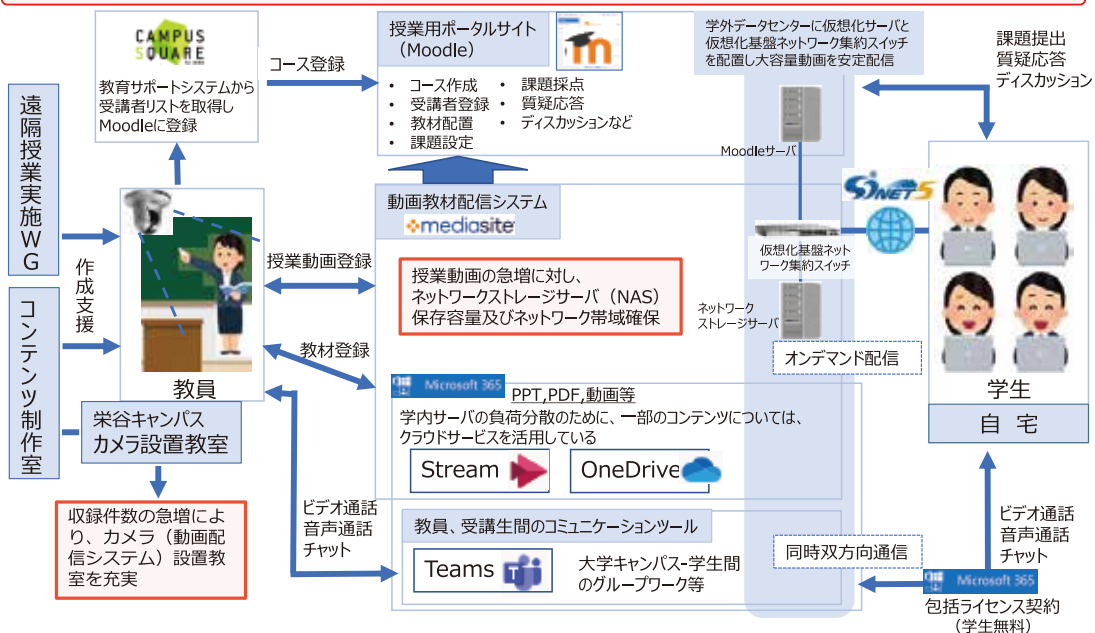
3. 地域連携の全学窓口機能

地域から大学への相談窓口機能を果たし、案件内容に応じて関係各所へのコーディネートを行います。



和歌山大学における遠隔授業実施体制

- 実施体制強化の取組 (文部科学省補助金獲得)
- ビデオ教材作成用カメラ（動画配信システム）を設置する教室の充実
 - 教育コンテンツを保存するサーバ機器の保存容量確保
 - 増加する動画配信コンテンツを安定的に配信するためのネットワーク帯域の確保



和歌山大学基金寄付金のご報告と 創立70周年記念事業基金へお願い

副学長・基金室長 足立 基浩



和歌山大学は、学生への支援、教育研究の質の向上及び社会・地域貢献活動の充実を図ることを目的として、和歌山大学基金を創設しております。

本年度5月には、新型コロナウイルス感染症により困窮した学生に対する大学独自の支援に大学活動支援基金から500万円を支出いたしました。皆様からご寄付賜りました基金により、申請からわずかな期間で速やかに学生へ給付することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、昨年は和歌山大学が新制大学として創立され70周年の記念の年にあたり、「そして ここから」をスローガンに大学創立70周年記念事業基金を創設いたしました。和歌山大学が開かれた大学として、地域とのパートナーシップを深めるために実施する「和歌山大学高松地区 松下会館再生事業」(和歌山市中心地区)と「和歌山大学栄谷キャンパスグラウンド改修事業」の二つの事業から構成されております。詳細は別添「和歌山大学創立70周年記念事業基金について」をご覧くださいませようお願いいたします。

昨年度は、大学活動支援基金及び特定目的支援基金により、①災害(ボランティア派遣)支援、②グローバル人材を育成する支援、③研究活動等に対する支援、④学生の奨学に対する支援、⑤課外活動を円滑に行うための支援、⑥本学の特徴的な教育の1つである自主演習(クリエ)への支援、⑦地方創生にかかる活動への支援、⑧教育振興にかかる支援、⑨観光人材育成にかかる支援を実施いたしました。以上、大学基金の活動をご報告させていただきます。

基金室では、今後も大学の活動をさらに発展・展開するために各事業に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育懇談会のアンケートにご協力ください

次回以降の開催企画に役立てるため、アンケートを実施いたします。【設問4問】

今年度の実施方法へのご意見、ご要望を下記QRコードまたはURLからご回答願います。



https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=ITZ7AXkYXkypqfgQAq4Y3X2C9erjFmpPoyX_0G8h9XdUNDY5WUM5MkNLVfDOR1JFTINJS1hRUVZaWS4u

問い合わせ先

教育懇談会全般：学務課 教育総務係	073-457-7120
教 育 学 部：学務課 教育学部係	073-457-7219
経 済 学 部：学務課 経済学部係	073-457-7805
システム工学部：学務課 システム工学部係	073-457-8021
観 光 学 部：学務課 観光学部係	073-457-8542
経済支援・課外活動：学生支援課	073-457-7128